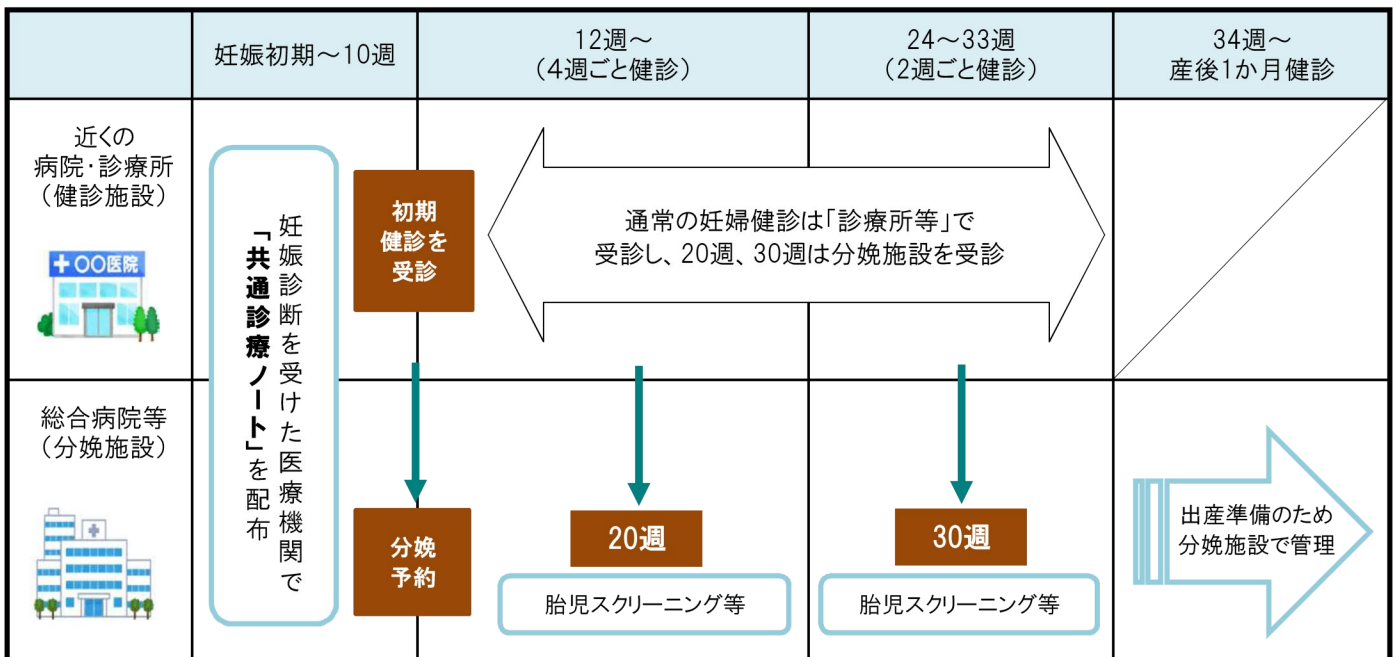


産科セミオープンシステムについて

産科セミオープンシステム利用の流れ


- ① 妊娠診断を受けた医療機関で、当該システムの利用を希望する妊婦に「共通診療ノート」を配布。
- ② 妊婦は、「共通診療ノート」を持参し、妊婦健診初期(10～12週頃)に、近くの診療所等を受診。
- ③ 以降、33週頃までは近くの診療所等で妊婦健診を受診するが、20週及び30週の2回は分娩施設を受診。
※この間、「共通診療ノート」で情報を共有し、夜間休日等の緊急時には、分娩施設が対応。
- ④ 34週以降は、出産準備のため分娩施設で妊婦健診を行う。

<利用イメージ>



※システム利用者が、途中でハイリスクと診断された場合、以後の管理は分娩施設で行う。



産科セミオープンシステム導入のメリット


**妊婦健診は
お近くの診療所等で** 

- 自宅や職場から近い
- 待ち時間が短い
- 土曜日も診察を行うことが多い

通院に係る負担の軽減
利便性の向上

それぞれの医療機関のメリットを活かした連携

**出産は総合病院等の
分娩取扱施設で** 

- 異常がある場合は、優先的に出産予定の病院が対応
- 夜間・休日など、緊急時への対応が可能

安全安心な出産環境の提供